

## 「説得交渉学研究」投稿論文執筆要項

### 1. 論文の題目と著者名

(1) 論文題目と副題は、日本語の場合－（ハイフン）で分け、英語の場合、コロン（:）で分ける。

【例】禁止された立場の受容にリアクタンスが及ぼす効果－自由への脅威が態度と一致する場合に通常生じる効果は何か－

(2) 論文題目の英文表記は、題目の先頭の文字だけを大文字表記とする。

【例】Effect of psychological reactance on acceptance of the threatened positions  
: What are the ordinary effects of attitude-consistent threat to freedom?

(3) 著者名の英文表記は、名を先に、姓を後に置き、名は先頭の文字のみを大文字表記とし、姓は全ての文字を大文字表記とする。

【例】Taro YAMADA

### 2. 本文

(1) 原稿の形式および文の内容と構成が要件を満たしていない投稿論文は受理されない。

(2) 句読点は、テン（、）とマル（。）を使用する。ただし、引用文献の表記は、「8. 引用文献リスト」に従う。

(3) 外国人名は、「6.本文中における文献の引用」の(1)に従う。ただし、文献を引用するのではない場合には、初出時にイニシャルを付して姓を示し、以後は姓のみを記す。

【例】科学的説得研究は Hovland, C. I.によって・・・

必要があれば、日本語の専門用語の初出の際に原語を( )内に書き添える。

【例】提出された防護動機理論(Protection Motivation Theory)は・・・

(4) 外国語は、一般の用法にしたがってカタカナで書く。

(5) 数を表記する場合には、原則として算用数字を用いる。

(6) 計量単位は、国際単位系 (SI)を用いる。

(7) イタリック体、ゴシック体、下線などの特殊字体を用いるときは、指示を添える。ゴシック体は原則として見出しで用いる。

(8) 見出しは、大見出し、中見出し、小見出しの3種類を用い、ゴシック体で表記する。見出しの種類の一部を省略してもよいし、さらに小さな見出しが必要な場合は、小見出しに(1), (2), a. b.のように数字もしくはアルファベットをつけて表記する。

原則として、大見出しは前1行空けて中央寄せ（改行して本文）、中見出しは左寄せ（改行して本文）、小見出しは左寄せ（1文字分スペースを置いて本文）とする。展望・総説論文では、見出しに数字をつけても良い。

### 3. 図表

(1) 図は、Figure 1、Figure 2あるいは図1、図2のように、表は、Table 1、Table 2あるいは表1、表2のように通し番号をつける。図表の挿入希望位置を原稿の右余白に指定すること。Figure 1、Table 1のように英語にする場合、図表のタイトル及び中身も英文で書く。

(2) 表の縦罫は、表を見にくくするので極力使用しないこと。

#### 4. 英文アブストラクト

(1) アブストラクトは英文で書き、問題、方法、結果、結論などを 130～230 語程度で簡潔に示す。投稿時には、アブストラクトの日本語原稿も添付すること。

(2) 英文アブストラクトは、投稿前に専門家による校閲を経ること。投稿時に添付表にそのことを明記する。審査過程でアブストラクトの書き換えが行われた場合には、再度、英文校閲を行うこと。

#### 5. キーワード他

(1) 論文の分類と検索のため、論文を特徴づけるキーワードをつけること。

(2) キーワードは英語、および日本語で示し、その個数は 3～5 項目とする。英語のキーワードは原別として小文字で書く。

【例】 Key words: psychological reactance, resistance to persuasion, attitude change, persuasive communication, attitude-consistent threat

キーワード：心理的リアクタンス、説得への抵抗、態度変化、説得的コミュニケーション、順態度的脅威

尚、英文のタイトル、氏名、所属、キーワード、アブストラクト、人名、文献などはすべて times new roman の字体を用いること。

例) Hovland(1960)によれば・・・このような場合、数字も times new roman にする。

Figure 1、Figure 2

本文中の = が全角、半角とさまざまにならないように、半角に統一する。= の前後には半角のスペースを入れる。

例)  $F(2,157) = 3.515, p < .05$

$t = 3.257, df = 5, p < .001$

上のような書き方が見やすいので、上のように書く。

本文中及び図表の中の、 $df, t, F, r, SD, M, N, R, R^2, \chi^2, r^2, p, \alpha$ などはすべてイタリックにする。

#### 6. 本文中における文献の引用

(1) 本文中では、著者の姓と出版年を示す（ただし、混同の恐れがあるときは、名あるいはイニシャルを付す）。なお、区切りの記号としてはテンではなく、半角コンマと半角スペースを用いる。また、文中の丸括弧は半角()を用いる。

【例】文頭の場合：小林(2006)は・・・

Hovland(1960)によれば・・・

【例】文末の場合：・・・が報告されている(田村, 2006)。

・・・と指摘されている(Hovland, 1960)。

(2) 2人の著者の共著の場合は引用ごとに両著者の姓を書く。著者姓の間は、本文中の日本語では“・”(中黒)、英語では“&”で結ぶ。

【例】文頭の場合：榊・大島(1996)は、この問題について・・・

Petty & Cacioppo(2000)の実験結果からは・・・

【例】文末の場合：・・・と述べている(榊・柏木, 1996)。

・・・を実証した(Petty & Cacioppo, 2000)。

(3) 著者が3人以上のときは、初出では全著者の姓を書く。アルファベットで著者の姓を表記する場合、コンマと半角スペースで区切り、最後の著者の前にはコンマと半角スペースに続けて“&”と半角スペースを置く。2度目以降は、第1著者の姓の後を、日本語表記では“ほか”、英語表記では“et al.”と略す。

【例】初出の場合：隅田・木村・佐藤・竹田(1999)

Hovland, Janis, & Kelley(1953)

【例】2度目以降の場合：隅田ほか(1999)

Hovland et al.(1953)

(4) 同一箇所に2つ以上の文献を示すときは、( )内に著者姓のアルファベット順に並べ、半角セミコロン(;)と半角スペースで区切る。

【例】先行研究(Hovland, 1960; 一色, 2006; 榊・滝本, 1996)によると・・・

なお、同一著者の文献が複数ある場合には、半角コンマと半角スペースで区切って年次順に並べる。

【例】榊(1985, 1990, 1995)は・・・

同一出版年のものについては、出版年の後に a, b, c, ... を付して区別する。

【例】・・・を証明した(田村, 1996a, 1996b, 1996c, 1998)。

(5) 翻訳書を引用する場合は、最初に原典の出版年、次に翻訳書の訳者と出版年を記して括弧でくくる。括弧内の出版年等の区切りには半角スペースを使用する。

【例】Hovland, Janis, & Kelley(1953 今井訳 1960)は・・・

【例】・・・というほかはなかった(Descartes,1970 野田訳 1974)

7. 注(大見出しにはせず、頁の左側に(注)のようにして目立たないように書く)

(1) 注には、上付き数字を使って通し番号をつける(例<sup>1)</sup> <sup>2)</sup> <sup>3)</sup>)。全ての注は、一括して引用文献の前におく。

(2) 謝辞、学会発表抄録、科学研究費などの助成金に関する注の番号は題目につける。投稿時と掲載時とで所属が異なる場合には、注の番号は人名につける。

(3) 本文における注の番号は該当する箇所につける。

【例】注1) 本研究は、独立行政法人日本学術振興会平成20年度科学研究費・・・

注2) 保護的動機理論と訳すこともあるが、ここでは・・・

8. 引用文献リスト

(1) 論文の最後に一括して示す引用文献リストは、本文中で引用したものを著者姓のアル

ファベット順にすべて挙げる。引用しない文献は挙げない。

- 1) 記載は、著者名、出版年、表題、その他の順に行う。詳細は下例にしたがう。
- 2) 著者姓が同じ場合は、名のアルファベット順に並べる。
- 3) 同一著者が、単独である文献と、第 1 著者として共著である文献とがある場合は、単独のものを先にする。

【例】 McGuire, W. J. (1980). . . .

McGuire, W. J. & Millman, S. (1965). . . .

2 人の場合、& の前に , は必要ない。

Hovland, C. I., Janis, I. L., & Kelley, H. H. (1999). . . .

3 人以上の場合にのみ、& の前に , を入れる。

- 4) 第 1 著者が同じで、第 2 著者が異なる場合は、第 2 著者姓のアルファベット順に並べる。第 3 著者以下も同様にする。

【例】 Hovland, C. I., Janis, I. L., & Kelley, H. H. (1999). . . .

Hovland, C. I. & Rosenberg, M. J. (1995). . . .

- 5) 同一著者の文献が複数ある場合は、早い年次のものから並べ、同一出版年のものは、本文中で出版年の後に付した a, b, c, . . . の順に列挙する。

【例】 Petty, R. E. (2000). . . .

Petty, R. E. (2003a). . . .

Petty, R. E. (2003b). . . .

(2) 著者名は、日本語では姓名を書く。姓と名を分けるほうがよいときは、間を一字あける。欧語では、姓、コンマ、半角スペース、名のイニシャル、ピリオドを記す。イニシャルでは不十分のときは、名を略さずに書く。

- 1) 共著の場合、著者の間を、日本語では“・”（中黒）、欧語では 半角スペースの後“&”（3 人以上の場合はコンマと半角スペースで区切り、最後の著者の前にコンマと一字あけて“&”）を入れる。

【例】 小林和久・平野英一・高橋啓太・村野良造 (1999). . . .

Hovland, C. I., Janis, I. L., & Kelley, H. H. (1953). . . .

McGuire, W. J. & Millman, S. (1965). . . .

Petty, R. E. (2000). . . .

滋野英憲(2001). . . .

- 2) 団体や機関名義のものは、名称を略さずに書き、個人名と同様にする。

【例】 法務省入国管理局入管統計課 (1990). 我が国の国際人流の変遷 大蔵省印刷局

- 3) 新聞・雑誌記事の引用は、著者が不明な場合は記事タイトルあるいは見出しを先頭におく。著者が明らかな場合は、著者名、記事タイトルの順に記載する。新聞・雑誌記事の場合は出版年だけでなく、月日も表記する。

【例】 社説：ヒロシマ：原爆の罪と核抑止力のジレンマ (2007). 読売新聞 8 月 6 日朝刊

(3) 逐次刊行物の場合は、著者名、刊行年、表題、誌名、巻数（号数あるいは通し番号）、掲載ページを示す。掲載ページは、文献の最初と最後のページをハイフン（-）で結ぶ。欧文の場合は雑誌名をイタリック体とする。学会抄録を引用した場合は、誌名の箇所に抄録集名を記す。

【例】 Hass, R. G. & Grady, K. (1975). Temporal delay, type of forewarning, and resistance to influence. *Journal of Experimental Social Psychology*, Vol.11, No.3, pp.459-469.

川名好裕 (1980). ドア内への片足技術と玄関払い技術における承諾条件：Foot-in-the-Door Effect と Door-in the-Face Effect について 日本心理学会第 44 回大会発表論文集、701 頁。

上田一成(1983). 説得的コミュニケーションにおける外見的魅力の効果 実験社会心理学研究、第 19 巻、第 2 号、146-160 頁。

1) 年報、年鑑等で当該年版とその発行年が異なるときは、そのことが分かるように示す。

【例】文部科学省 (2004). 高等教育白書 2003 年版 日本教育出版

2) 誌名だけで不十分のときは、誌名につづき（ ）内に機関名を入れる。 【例】

真鍋一史 (1998). 中国における不安感・科学観・環境意識の諸相とその変化の方向：サーベイ・データの通時的分析 国際協力論集（神戸大学大学院国際協力研究科）、第 6 巻、1-34 頁。

3) 学位論文や修士論文は、下例のように記す。

【例】高木啓子 (2000). 説得に及ぼす類似性の効果とその生起メカニズム 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士論文（未公刊）

4) 印刷刊行されることが確定しているが、未刊である場合には以下のように記す。なお、原則として公刊されることが確定していない論文の引用はできない。

【例】田村次郎(印刷中). 対人交渉における説得の機能 説得交渉学研究

(4) 書籍の書き方は以下の例にしたがい、形式をそろえて必要なことを示す。

1) 標準となるもの。和文書籍の場合は、著者名、刊行年、表題のほか、版数、出版社名を書く。欧文書籍の場合は、出版社名の前に出版地を書く。欧文書籍の表題はイタリックにし、ドイツ語以外は、最初の語順のみ大文字とする。

【例】藤原武弘 (1995). 態度変容理論における精査可能性モデルの検証 北大路書房  
Petty, R. E. & Cacioppo, J. T. (1986). *Attitudes and Persuasion: Central and Peripheral Routes Attitudes Change*. New York: Springer-Verlag.

2) 編集、監修になるものには、(編)、(監)、(編著)、欧文では、(Ed.)あるいは(Eds.)を編者名の後に入れる。

【例】Hovland, C. I. & Janis, I. L. (Eds.)(1959). *Personality and Persuasibility*. New Haven, Connecticut: Yale University Press.

3) 著書・編集書・監修書の特定章の場合、和文では、著者名、出版年、章題目、編著者名、書名、出版社、掲載ページを書く。欧文では、“In”につづいて編著者のイニシャルを先に書き、ピリオド、一字あけて、姓を記す。その後、書名、出版地、出版社、“pp.”で掲載ページを示す。

【例】木村堅一 (2002). 脅威認知・対処認知と説得：防護動機理論 深田博己 (編著)  
説得心理学ハンドブック：説得コミュニケーション研究の最前線 北大路書房  
pp.374-417.

Rogers, R. W. (1983). Cognitive and physiological processes in fear appeals and attitude change: A revised theory of protective motivation. In J. T. Cacioppo & R. E. Petty (Eds.), *Social Psychophysiology: A Source Book*. New York: Guilford Press. pp.153-176.

4) 版数は、和文の場合、書名の後に全角スペースを空けて示す。また、欧文の場合、書名のあとの括弧内に示し、その括弧のあとに書名のピリオドを置く。

【例】岡本真一郎 (2001). ことばの社会心理学 第2版 ナカニシヤ出版

Aronson, E. (1992). *The Social Animal* (6th ed.). New York: W. H. Freeman and Company.

5) 数巻にわたる書籍の特定の1巻を示す場合は、次のように記す。

【例】山田太郎 (2006). 態度変容の社会心理学：説得のテクニック 社会心理学シリーズ  
10 プレーン出版

Lindzey, G. & Aronson, E. (Eds.)(1985). *The Handbook of Social Psychology: Vol.2. Special Fields and Applications* (3rd ed.). New York: Random House.

6) 翻訳書の場合は、まず原著を引用し、( ) 内に訳書に関する情報を示す。

【例】Aronson, E. (1992). *The Social Animal* (6th ed.). New York: W. H. Freeman and Company.  
(古畑和孝(監訳)岡 隆・亀田達也(訳)(1994). ザ・ソーシャル・アニマル 第  
6版 サイエンス社)

(5) オンライン・ジャーナル、ウェブ・ページの引用。

1) オンライン・ジャーナルの場合には、逐次刊行物の場合と同様に、著者名、刊行(発表)年、表題、誌名、巻数(号数あるいは通し番号)、掲載ページ(ページ数表記のある場合)を示し、最後に入手先ウェブアドレスを< >内に付す。掲載ページは、文献の最初と最後のページをハイフン(-)で結ぶ。欧文の場合は雑誌名をイタリック体にする。

【例】田村貴紀 (2005). ウェブログ上の社会的意見に対するマスメディアの影響：トピックとターミロジーの連動 社会情報学研究、第9巻、第2号、45-58頁.

< <http://my.spinavi.net/tamura/media/1/20050619-websocial20050317.pdf> >

2) ウェブ・ページの引用の場合には、アドレス及びアクセスした日を下記のように記す。

【例】Gallup Poll. (2010). Americans' global warming concerns continue to drop. Retrieved January 9, 2012, from <http://www.gallup.com/poll/126560/americans-global-warming-concerns-continue-drop.aspx>

日本チェーンストア協会 (2011). 平成23年3月度チェーンストア販売統計. Retrieved January 10, 2012, from <http://www.jcsa.gr.jp/figures/data/201103.htm>

日本フランチャイズチェーン協会 (2011). JFA コンビニエンスストア統計調査月報 2011年3月度. Retrieved January 10, 2012, from [http://www.jfa-fc.or.jp/misc/static/pdf/cvs\\_2011\\_3.pdf](http://www.jfa-fc.or.jp/misc/static/pdf/cvs_2011_3.pdf)